

状 况 写 真

区 分 任 意

上 屋 久 菅 林 署

(様 式 6)

宮 之 浦 岳 1978 年 8 月 11 日

H. 3. 11. 20 撤 新



北
 南
 山頂
 撤 新

状 況 写 真

区分 任意

上屋久 営林署

様式 6)

宮崎県 1938年秋



地帯 山の 斜面 11/8 11

梢部 12m 径 1.5m 高さ 1.5m (梢部 2m 径 1.5m 高さ 1.5m)



状 况 写 真

区分 任意

上屋久 管林署

(様式6)

宮₂市_出 1938 林小_班

種子直接区 刈取区



鹿害 亦被₅₀低<? 7222白



放置区
鹿害₁ 2号 正停



課題	ヤクスギの天然更新について 第 1 試験地 (19ろ。林小班)					
継続・新規	担	森 林 整 備 課	開 発 箇 所	上屋久営林署	開 発 期 間	昭和 63 年度
指示・自主 任意	当					平成 4 年度
年度別実施経過			4 年度 実施報告			
			<p>1 成長量調査</p> <p>地かき, 地拵, 刈出区 天然屋久スギ</p> <p>樹高 $\frac{95}{65 \sim 137}$ cm</p> <p>根元径 $\frac{2.0}{0.8 \sim 4.7}$ cm</p> <p>植え込み屋久スギ</p> <p>樹高 $\frac{34}{18 \sim 43}$ cm</p> <p>根元径 $\frac{1.3}{1.2 \sim 1.4}$ cm</p> <p>種子直播刈出区 天然屋久スギ 不明 (枯死したものと思われる)</p> <p>植え込み屋久スギ</p> <p>樹高 $\frac{35}{17 \sim 51}$ cm</p> <p>根元径 $\frac{1.3}{1.1 \sim 1.5}$ cm</p> <p>放置区 天然屋久スギ</p> <p>樹高 $\frac{44}{39 \sim 46}$ cm</p> <p>根元径 $\frac{0.8}{0.7 \sim 1.1}$ cm</p>			

3. 調査方法, 結果考察

1) 調査方法

第1試験地では, 地かき地拵後刈出しを行う区, 種子を直播し刈出しを行う区及び放置区にプロットを設定し, 植え込みのスギと天然のスギで, ヤクスギの成長にどのくらい差が出るか, また, 植え込みのスギと天然のスギで鹿害に差があるのかどうか比較検討する。

第2試験地では, 刈出し区, 放置区の2区を設定し, 有用樹の刈出し, 放置区の観察, 有用樹成立本数の補正を行いながら, 人口補正した区と放置した区で, ヤクスギの成長量の差を比較検討する。

2) 結果

第1試験地 19ろ。林小班

屋久スギ成長量調査 (プロット内) S 63. 12. 20調査							屋久スギ成長量調査 (プロット内) H 4. 11. 17調査								
区分		地かき地拵刈出区		種子直播刈出区		放置区		区分		地かき地拵刈出区		種子直播刈出区		放置区	
樹種NO	樹高 ^{cm}	根元計 ^{cm}	樹高 ^{cm}	根元計 ^{cm}	樹高 ^{cm}	根元計 ^{cm}	樹種NO	樹高 ^{cm}	根元計 ^{cm}	樹高 ^{cm}	根元計 ^{cm}	樹高 ^{cm}	根元計 ^{cm}	樹高 ^{cm}	根元計 ^{cm}
天然	屋久スギ*N01	30	-	-	-	17	-	天然	屋久スギ*N01	68	1.8			46	1.1
	屋久スギ*N02	35	-			-	-		屋久スギ*N02	108	4.7			46	0.7
	屋久スギ*N03	15	-			17	-		屋久スギ*N03	65	1.0			39	0.7
	屋久スギ*N04	45	-						屋久スギ*N04	137	5.9				
植込み	屋久スギ*N01							植込み	屋久スギ*N01	18	1.4	32	1.1		
	屋久スギ*N02								屋久スギ*N02	43	1.2	40	1.2		
	屋久スギ*N03								屋久スギ*N03	35	1.4	17	1.4		
	屋久スギ*N04								屋久スギ*N04	40	1.4	51	1.5		

- 記載要領 1. 調査結果及び考察を記入する。
2. 状況写真は別途整理する。

第1試験地, 第2試験地を樹高の成長量で比較した。

図-1 成長量比較図
第1試験地

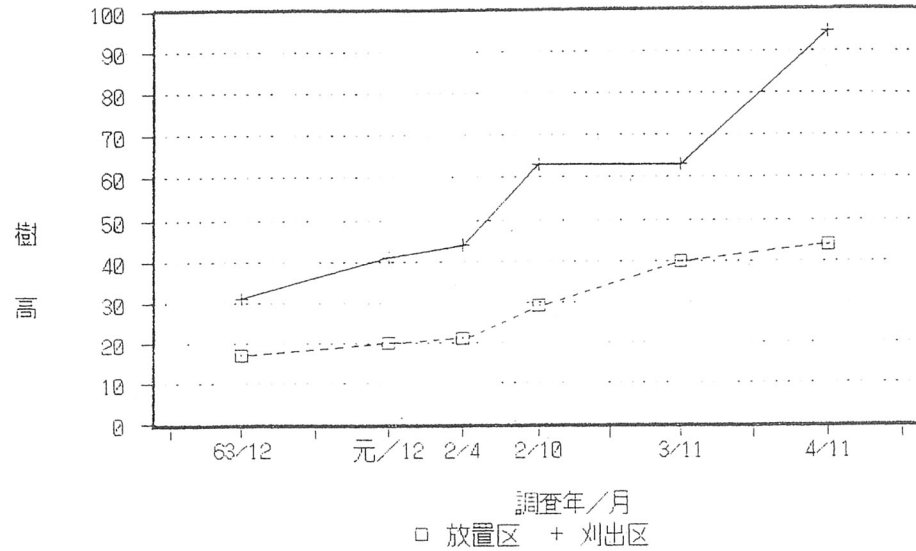
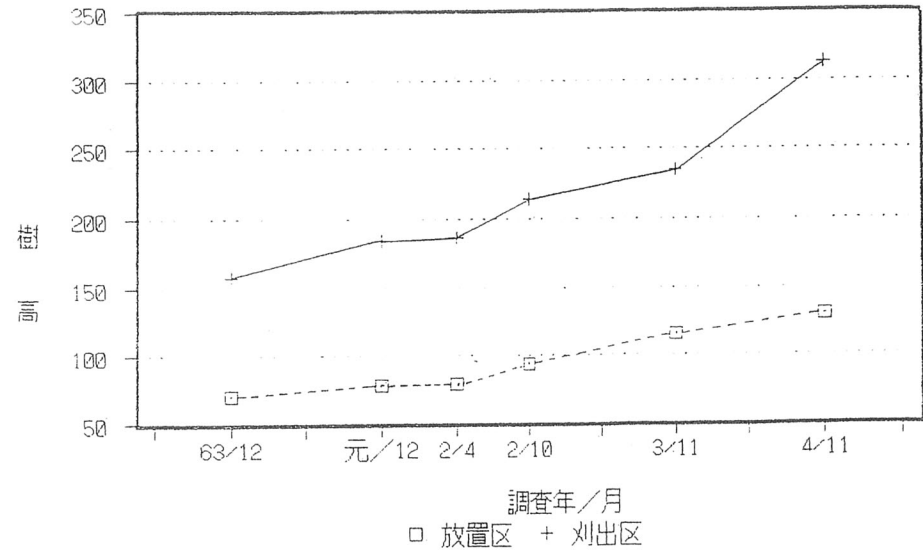


図-2 成長量比較図
第2試験地



- 記載要領 1. 調査結果及び考察を記入する。
2. 状況写真は別途整理する。

技術開発完了報告

様式 3

熊本営林局

課 題 名	ヤクスギの天然更新について				
指・自・任 区 分	自主	開 発 期 間	昭和63年度 ～ 平成4年度	担 当	森林整備課
目 標	更新補助作業を行い、ヤクスギを主体とする育成天然林へ誘導し施業技術の確立を図る。				
結 果	研究結果から、放置区より刈出区の方が成長及び稚樹発生の面で優れており、天然更新した箇所もある程度手を加えればヤクスギを主とした優良な天然林が形成できる。		技術開発経費内訳		
			物件費 役務費 人件費 基 職 <18> その他 < > 合 計 <18>	<人工>	千円
開発経過と調査内容					
1. 第1試験区（更新補助作業の比較試験）					
(1). 設定年月：昭和63年1月					
(2). 場 所：宮の浦岳国有林 19ろ ₂ 林小班					
(3). 施 業 区：試験設定図-1のとおり					
ア. 地がき地拵, 刈出区：0.0460ha					
イ. 種子直播, 刈出区：0.0722ha					
ウ. 放置区：0.0354ha					
計：0.1536ha					
(4). 林況					
イスノキ, ヤマグルマ等広葉樹を主体とした150年生天然林を61年度に伐採, 尾根沿いの保護樹帯にヤクスギ, ツガ, ミヤコダラ等がある。					
(5). 植込み					
平成元年度に, 地がき地拵区, 種子直播区に天下1類で植込みを実施した。(本数：500本/h a)					

2. 第2試験区（保育方法の比較試験）

(1). 設定年月：昭和63年1月

(2). 場 所：宮の浦岳国有林 19ろ₂林小班

(3). 施 業 区：試験設定図-2のとおり

ア. 刈出区：0.48ha

イ. 放置区：0.27ha

計：0.75ha

(4). 林況

56年度伐採, 尾根沿いのヤクスギ等の有用樹の種子が伐採跡地に飛来して相当数の天然木が発生している。

評価及び普及指導

放置区と刈出区の成長, 稚樹発生の比較では, 刈出区の方が成長が良く, かつ, 稚樹の発生も多い。このことから, 稚樹の刈出に加え必要に応じて地がきあるいは植込みを行うことにより, ヤクスギを主とした有用樹の成林が十分に期待できる。

林地の状況に応じて全てを自然力に任せる区域と, ある程度の人手(植込み, 下刈等)を加える区域を区分けしたような施業を実施したい。